



教育ゆりほんじょう

第 16 号
令和 7 年 2 月 28 日
由利本荘市教育委員会
学 校 教 育 課
教 育 支 援 セ ン タ ー

第2回由利本荘市コミュニティ・スクール 連絡協議会が開催

令和 7 年 1 月 30 日（木）午後 2 時半から西目公民館シーガルで、今年度 2 回目のコミュニティ・スクール連絡協議会が開催されました。テーマに基づいて実施した今年度の活動を振り返り、来年度の見通しをもつことをねらいとして、5 つの地域の代表の方にパネリストとして参加していただき、パネルディスカッションを行いました。その様子をご紹介します。

テーマ「子供たちの成長を支えるために、学校と地域が一緒に取り組むこと」
～学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進～

<ファシリテーター>

CSマイスター 高野 睦 氏



<パネリスト>

鳥海地域運営協議会会長	佐藤 吉則 氏
西目教育学習課課長	豊嶋 昌則 氏
東由利小学校教頭	吉田 哲哉 氏
由利小地域コーディネーター	荘司 流美子 氏
大内地域運営協議会会長	岡見 善人 氏

パネリストによる取組の紹介

<鳥海>第2回地域運営協議会

→「鳥海ふるさとクラブ」の事例発表を基にした、児童生徒とCS委員との意見交換を実施。鳥海の魅力を再発見、子ども主体の活動の重要性を確認でき、有意義な会になった。
郷土芸能・横笛
→地域に出向く学習の際の時間の制約と指導者不足が課題。

<西目>元気な地域づくりチャレンジ事業

→学校・地域・行政が連携して実施。地域貢献・地域活性化につながった。コミュニティ・スクールという体制を意識し関係機関でねらいの共有を図ることで、より効果的なものになる。
あいさつ運動（月1回）
→学校・地域・団体が協力し連携して実施していく中で、さらによりよいあいさつに変容した。今後も継続していきたい。

<東由利>小学生と行う地域のラジオ体操

→学校運営協議会のアイデアをもとに計画。健康づくり、地域の人との絆づくりになった。来年度も継続し、参加者を増やしたい。
東由利劇場をつくろうプロジェクト
→今年度発足。保育園・小学生の太鼓や鼓笛などの教育活動の発信をしていきたい。
三大イベント（黄桜まつり・軽トラ市・雪まつり）
→アイデアを生かし活性化につなげたい。

<由利>由利町音頭

→学校祭で生徒が踊ることで由利町音頭を継承している。地域コーディネーターを中心に、練習用DVDを制作。今後、地域の人も自由に参加し自由に踊れる形にしていきたい。
ふるさと先生
→小学校全学年で、地域人材を生かしふるさと先生として授業支援を行っている。地域の人子どもたちと触れ合い、学校への関心も高まるよさがある。

<大内>アルミ缶回収→統合中になる前から行っている伝統的な地域貢献活動。収益は地域の施設等に還元。地域への周知の仕方が課題。

あいさつ運動

→こだわりをもって長年継続してきて、活動が浸透している。現在は小・中・地域の方が連携し、学校玄関前や通学路で実施。

職場体験・校外体験活動

→地域に根ざしたキャリア教育を推進し、地域の方との触れ合いを通して地域のよさや生き方を学ぶ取組を実践した。体験の場の拡充、高齢者との交流の機会を創意工夫したい。

R5に制作された
由利町音頭の練習用DVD



地域ごとの情報交換



フロアからの意見



持続可能なCSにするための方策について（パネリスト・各地域の意見から）

学校運営協議会の役割・活用

- ・目標を共有することが大切。開催時は、何を協議するのか明確なねらいをもつ。
- ・学校や地域が抱えている課題を共有し、話し合う。
- ・幼・保・小・中で目指す子ども像を地域・保護者で共有するとともに、それぞれが協力できることを明確にし、学校と地域の両輪で取り組んで行く。

地域学校協働活動の工夫

- ・活動だけに終わらずに、教育課程に位置付け、授業と関連させて行うことで子どもたちの本当の学び・生きる力になる。
- ・地域学校協働活動は、地域の人参加しやすい活動にするための工夫が必要。
- ・少子高齢化だからこそ、〇〇の達人の高齢者との交流の機会を工夫し、笑顔が広がる地域にしたい。
- ・伝統芸能を残すためにも小・中が連携して土台作りを。小学校から中学校につなげる工夫も。
- ・児童生徒と地域住民が一体となった行事を検討していきたい。例：さなぶり運動会、町民運動会等
- ・伝統文化の継承のために、児童生徒の力を借りた活動を工夫し展開していく。
- ・幼・保との連携した活動も実施したい。

人材育成（地域コーディネーター、ボランティア等）

- ・CSの理解や地域学校協働活動の実施について、保護者へも働きかけ、理解を得て協力を仰ぎたい。
- ・小・中合同で、地域コーディネーター、学校関係者、運営協議会委員等で、人材育成について情報交換したり、相談したりする場を設定する。

まとめ



地域の特色を生かし長年継続してきた取組、子どもたちのアイディアが地域づくりにつながる取組、途絶えたものを児童生徒の力を借りて復活させた取組、ニーズに応じた地域貢献の取組など、パネリストの方々のお話は、とても参考になったと思います。

今、10年に一度の学習指導要領の改訂が迫っていますが、「地域みんなで子どもを育てる」「学校教育を通じてよりよい社会を創り上げていく」というコンセプトは変わりません。これからも、社会に開かれた教育課程のもと、さらに学校と地域、家庭が連携し、子どもを育てていくための取組を続けていきたいと思います。

参加者の感想から

- ・大変分かりやすく有意義な会だった。会長やコーディネーター、行政等、それぞれの立場で活動している取組は、大いに参考になった。
- ・少子化、PTAの意識の変化で難しいところもあるが、保護者を巻き込み、地区の組織や団体の力を借りて活動に取り組みたい。
- ・地域の子どものみんなで育てるために、学校運営協議会の役割は大きいと感じた。
- ・今の取組が、地域とのつながりをより深める内容にシフトしていくような工夫を考えたい。
- ・学校の職員・行政職員、コーディネーターが交代しても、CSが機能することで、考え方や思いが受け継がれることは大切だと思った。

今年度は、昨年度以上に地域と学校が協力体制をとり、子どもたちの成長を支えるために様々な工夫を凝らしながら、地域学校協働活動が展開されていました。CS連絡協議会では、その取組を見直したり、確かな前進と成果を確認し合ったりすることができました。

今後も、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。ありがとうございました。

(文責 CS協働コーディネーター 板垣 一恵)